

事故その他の事象(鉱害を含む。)の措置情報(平成18年)

番号	発生鉱山管轄産業保安監督部名	県名	発生年月日時間	鉱種	鉱山労働者数 A:9人以下 B:10~49人 C:50~99人 D:100人以上	事故その他の事象の種類	原因となった装置・施設等	ハザード(危険の内容)	事故その他の事象の概況	リスクマネジメント実施状況(発生前)	原因	対策	詳細情報
1	中部	岐阜	平成18年10月28日 7時35分頃	石灰石	D	坑廃水 (汚濁水の排出)	フレキシブルホース	フレキシブルホースの強度不足及び取り付け時の形状不良	<p>1. 軽炭(=軽質炭酸カルシウム)工場の製造過程から出る白濁水は、沈殿池に貯溜された後、処理工程に送られダスト等を混合して販売している。</p> <p>2. 従来は作業者が高圧ポンプホース水を使って沈殿池の攪拌を実施していたが、平成18年9月初旬から工程改善として、作業者がいない水中ポンプを利用した循環攪拌方式に変更した。</p> <p>3. 災害当日7時35分頃、軽炭工場作業責任者が沈殿池の循環攪拌用ポンプにつながるフレキシブルホースが裂けて白濁水(軽炭スラリー)が噴き出して沈殿池横の側溝を通過して工場前の用水路に流出しているのを発見し、直ちに作業監督責任者に状況を報告した。</p> <p>4. 作業監督責任者は、産業保安監督部、市等に災害内容を報告した。</p> <p>5. 流出した軽炭スラリーの量は、1m³程度である。</p>	本災害を予測していなかったため実施していなかった。	<p>1. 沈殿池内の沈殿物攪拌用ポンプの配管を接続していた塩化ビニール製のフレキシブルホースに亀裂が生じた。</p> <p>2. 亀裂の原因として、フレキシブルホースと配管接続部取り付け時の形状による曲げ応力が加わり続け、更にポンプ稼働時の振動によりフレキシブルホースと配管接続部が繰り返し接触したことが亀裂に至った原因と推定される。</p>	<p>1. 事故に対してとった措置 (1)被害の拡大を防ぐために直ちに設備の停止、アルカリ成分の中和作業、流出した軽炭スラリーの除去を実施した。</p> <p>(2)事故対応作業は、12時30分に総ての回収作業が終了した。</p> <p>2. 今後の対策 (1)漏洩事故防止対策が実施されるまでの間、循環攪拌方式で運転せず、従来の高圧ポンプホース水による沈殿物の攪拌を実施する。</p> <p>(2)今後の漏洩事故対策として 配管部分を総て鉄製配管に変更する。</p> <p>構内側溝については、工場前の用水路への流出を止めるため、廃水処理施設に導水できるように改造する。</p> <p>攪拌用ポンプ設備の運転時間を従来の24時間運転から監視できる常勤時間帯(7~17時)のみ運転とする。</p>	無